様式1-1

平成26 年度（ 25 年度実施分） 事務事業目的評価表

記入日　平成 26 年 10 月 30 日

1 事務事業の現状（DO）

事務事業名	No. 550527	地域支え合い体制づくり事業費	主管課名	高齢福祉課
この事務事業の位置	政策	誰もが健康で生きがいのある暮らし		
	施策	みんなで助け合える福祉のまち	課長名	深谷　真由美
	基本事業	高齢者に安全・安心な地域社会の推進		

(1)事業の概要

【徘徊高齢者家族支援サービス事業】
認知症等により、徘徊行動のある高齢者を在宅で介護する人に、位置探索システム専用端末を貸出し、徘徊高齢者の早期発見及び安全の確保に役立て、介護者の負担を軽減し、在宅福祉の増進を図る。
【認知症サポーター養成事業】
キャラバン・メイトが講師となる認知症サポーター養成講座により、住民が認知症に関する正しい知識や理解を取得し、認知症高齢者とその家族への支援のあり方を学ぶことができるよう支援する。
[対象]
みよし市に在住、在勤の人

(5)活動指標(事務事業の活動量を表す指標)　･･･数値は(9)

	名称	単位
①	認知症サポーター養成講座の開催回数	回
②		
③		

その指標

(25年度に実施した具体的なこの事業のやり方、手順等)
①認知症サポーターの養成
②みよし安心ネットへの登録の呼びかけ
③行方不明者の捜索模擬訓練の実施

26年度計画　■前年と同様　□変更あり　変更内容

(2)対象(この事業の対象、範囲となる人、物)

市民

(6)対象指標(対象の大きさを表す指標)　･･･数値は(9)

	名称	単位
①	市民（年度末）	人
②		
③		

その指標

(3)意図(この事業によって(2)の対象をどのような状態にしたいのか)

講座を受講し、市民に認知症サポーターになってもらうことで、認知症に関する知識の普及を行う。
みよし安心ネットへの登録を呼びかけ、行方不明者が発生したときに早期発見のため協力を依頼する。

(7)成果指標(意図の達成度を示す指標)　･･･数値は(9)

	名称	単位
①	サポーターの人数	人
②	みよし安心ネットへの登録者数	人
③		

その指標

(4)結果(上位基本事業の意図)

安心して住み慣れた地域で生活してもらう

(8)結果の成果指標(上位基本事業の成果指標)　･･･数値は(9)

	名称	単位
①	行方不明者の出現数	人
②		
③		

その指標

(9)事務事業の各種指標の実績と見込及び目標

指標 ＼ 年度		単位	24年度実績値	25年度実績値	26年度計画値	27年度目標値	28年度目標値	29年度目標値
(5)の活動指標	①	回	20	16	20	20	20	20
	②							
	③							
(6)の対象指標	①	人	59,141	59,474	60,200	60,800	61,400	62,000
	②							
	③							
(7)の成果指標	①	人	6,606	8,176	9,600	11,100	12,600	14,100
	②	人	300	445	500	550	600	650
	③							
(8)の結果の成果指標	①	人	0	3	2	2	2	2
	②							
	③							

(10)予算費目　会計　06 介護保険特別会計（保険事業勘定）　款 04　項 02　目 02

(11)コスト	年度	24年度実績値	25年度実績値	26年度計画値	27年度目標値	28年度目標値	29年度目標値
事業費 (決算又は予算額) A	単位	87	55	199	147	147	147
財源内訳 国庫支出金	千円	51	22	78	58	58	58
県支出金	千円	26	4	39	28	28	28
地方債	千円	0	0	0	0	0	0
その他	千円	0	0	0	0	0	0
一般財源	千円	10	29	82	61	61	61
人件費B	千円	0	2,136	2,136	2,136	2,136	2,136
正職員従事時間×人数	時間×人	×	96 × 6	96 × 6	96 × 6	96 × 6	96 × 6
正職員以外の人件費	千円						
その他費用C	千円	1	300	300	300	300	300
トータルコストA+B+C	千円	88	2,491	2,635	2,583	2,583	2,583
単位あたりコスト(トータルコスト/(6)の対象指標) ①	千円/ 人	0	0	0	0	0	0
②	千円/						
③	千円/						

様式1-2

事務事業名	No.	550527	地域支え合い体制づくり事業費

2 環境変化と住民意見等

(1)この事務事業はいつから開始したのか？

平成２３年度　から

(2)この事務事業を開始したきっかけは？

愛知県の実施する「徘徊・見守りSOSネットワーク構築事業」としてみよし市が実施した。

(3)事務事業を取り巻く状況は開始時期や過去と比べ変化しているか？

■ 変化していない
□ 変化している → 変化した内容

(4)事業実施上の課題、住民・議会等からの意見は？

【徘徊高齢者家族支援サービス事業】
PHS回線で位置探索するので、位置探索結果に誤差が生じやすいため、平成23年度からGPSにより位置探索する機器を導入したが、いくら探索精度を高めても、対象となる高齢者が機器を持たずに徘徊してしまうと探索できないことが課題となっている。
【認知症サポーター養成事業】
認知症サポーター養成講座を開催できるキャラバン・メイトを養成していくことが必要。また、住民が認知症サポーター養成講座を受講した後も定期的に同講座を開催できるよう支援する必要がある。

3 評価（SEE）

目的妥当性

(1)この事務事業は法定受託事務ですか、それとも、自治事務ですか？また、この事務事業を行う根拠や理由はなんですか？

□ 法定受託事務 → 根拠法令：法定受託事務は(2)から(5)への記載不要、(6)から評価する
■ 自治事務 → 根拠法令：認知症対策等総合支援事業実施要項
この事務を行う根拠又は理由：認知症の理解促進と高齢者の見守り体制を構築する

(2)この事業の意図は結果（基本事業の意図）に結びつきますか？

■ 結びつく
□ 結びつかない → 理由：

(3)対象を見直すこと（対象の拡大又は縮小）はできませんか？

□ できる → □ 拡大 / □ 縮小
■ できない → 内容：

(4)意図を見直すこと（意図の追加・拡充(意図の段階は正しいか)又は絞込み）はできませんか？

□ できる → □ 追加 / □ 拡充 / □ 絞込み
■ できない → 内容：

有効性

(5)この事業を廃止した場合の影響はありますか？

■ 影響が大きい
□ 多少影響がある
□ 影響はない
→ 理由又は内容：

(6)今以上に事業の成果を向上させることはできませんか？
※1-(7)の成果指標を向上させることはできませんか？

■ できる
□ できない
→ 理由又は内容：地域や学校のほか、市内の会社等でのサポーター養成講座開催

(7)類似又は関連する事業はありませんか？
また、類似事業との再編で費用対効果が向上しませんか？

□ ある → □ 庁内事業 / □ 庁外事業
■ ない
→ 類似事業名：
→ 類似事業との再編の可能性：□ ある / □ ない　内容：

効率性

(8)現在の成果水準のままで事業費を削減する方法はありませんか?(仕様や工法の変更、住民の協力など)

□ ある
■ ない
→ 内容：

(9)現状より人件費を削減する方法はありませんか？(従事時間を削減できないか？正職員以外の職員や外部委託はできないか？)

□ ある
■ ない
→ 内容：

公平性

(10)受益者負担はありますか？また、受益者負担割合は適正ですか？

□ ある → ■ 現状で適正 / □ 検討が必要
■ ない → 内容：
□ 受益者がいない

4 改革改善案（PLAN）

(1)今後の事業の方向性

□ 拡大　□ 改善　■ 現状維持　□ 縮小　□ 統合　□ 廃止・休止

コストの方向性	→ 維持	事業費の方向性	↓ 減額	成果の方向性	→ 維持

(2)改革・改善案
※対象、意図、手段等の見直しなど

【徘徊高齢者家族支援サービス事業】
支援の必要な高齢者の把握に努め、今後も事業を継続する。
【認知症サポーター養成事業】
市内の小学校、企業を中心に、認知症サポーター養成講座を開催し、毎年1,500人の養成を目標とする。またキャラバン・メイトの育成のため、継続的な支援が行えるように事務局を委託し、協働の手法により事業の質の向上を図る。